

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画（第3層） 2021年度達成度評価表 分野：大学運営

		評価	理由
中期目標	学長のリーダーシップの下で、効率的で機動的な大学運営を行います。		
中期計画	1 内部質保証システムの機能的有効性の促進	C	第1次中期行動計画（2013-2017）より継続している自己点検・評価の体制は、各学部・研究科・部署に十分浸透している。コロナ禍であっても、自己点検評価小委員会を定期的開催し、PDCAサイクルを維持したことは評価できる。教育の内部質保証における教学IRの活用については、教学IR室と学長室で情報の共有を行い、学部等がアセスメントに必要な情報の集計・分析・提供を行ったことは評価できる。内部質保証の基本方針及び手続きの策定や、全学内部質保証推進組織の整備等については、機関決定されたが、附属中・高との連携の部分では対応が遅れていることから、法人全体の体制整備に向けて、次年度以降の取り組みに期待する。第三者評価については、各学部・研究科において、適切な方法による適正な評価が行われることが望まれる。
	2 効率的な組織運営	B	各学部・研究科において、教員組織の編制方針に基づき、昇任・採用等が実施できている。経営学部のデータサイエンス専攻開設に伴う学部改組に、必要かつ重要な事項について今後、更に検討を重ね取り組むことが望まれる。また、事務組織の最適化に向けて、改善努力が望まれる。
	3 効率的な財政運営	B	継続的な募金活動の推進について、概ね目標どおりである。教育研究振興募金について継続的に募金活動を実行し、周知を行っていることや、神戸市のふるさと納税の仕組みを活用した「KOBÉ学生サポート 市内大学等応援助成金」制度では、昨年度と比べ件数・金額ともに増加する等、募金活動を推進していることは評価できる。今後も、計画性のある募金活動を継続的に行っていくことが望まれる。
	4 戦略的広報活動の推進	B	ホームページやFacebook、Instagramを活用して情報発信を行った結果、フォロワー数や「いいね」数が増加する等、コロナ禍で広報活動の制限がある中でも、一定の成果をあげていることは評価できる。オープンキャンパス等を含め、様々な方法を通じて、各方面に魅力的な情報を発信することにより、神戸学院大学の認知度やブランド力が向上することを期待する。
	5 SDの推進	B	「神戸学院大学におけるスタッフ・ディベロップメント（SD）実施に関する基本方針」に基づいた計画的SDの推進について、新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況ではあったが、計画されていた研修を実施し、大学全体のSD実施計画の策定も行っており、一定の評価ができる。次年度以降の取り組みにも期待する。

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画（第3層） 2021年度達成度評価表 分野：大学運営

		評価	理由
中期目標	学長のリーダーシップの下で、効率的で機動的な大学運営を行います。		
中期計画	6 男女共同参画の推進	B	男女共同参画推進室を中心としてフォーラム、学長カフェ等の開催、リーフレットやニュースレターの発行、OGや女性教職員の活躍を顕彰する「森わさ賞」の表彰、介護・保育事業等、全学的な男女共同参画への取り組みをコロナ禍においても継続的に実行していることは評価できる。また、各学部・研究科・部署において、女性教職員比率、上位職における女性比率の向上に向けて、共通認識を持って取り組んでいることは評価できる。なお、女性管理職の退職により、上位職における女性比率は低下したが、将来管理職候補となりえる指導監督職（リーダー・サブリーダー）の女性登用が増え、育成が進んだことは評価できる。今後、女性管理職の増加を期待する。また、男女共同参画の取り組みが共有できるよう、学内外に向けて随時、情報を発信することも重要である。
	7 教育後援会・同窓会との連携推進	B	同窓会活動活性化のための連携強化においては、コロナ禍において同窓会活動に大きな制約がある中、SNSを活用することにより卒業生と双方向のコミュニケーションを取る等により、可能な範囲で強化を図ることができている。また、同窓会との連携による講義やキャリア支援事業も、一定の成果をあげていることは評価できる。教育後援会支部総会は、コロナ禍において、支部と緊密に連絡をとり、支部の事情に応じて、概ね順調に実施できたことは評価できる。引き続き、教育後援会、同窓会との互惠互助関係を強化し、それぞれのニーズに応じた活動の充実を期待する。

評価 S：目標よりはるかに上回る、A：目標をやや上回る、B：おおむね目標どおり、C：目標をやや下回る、D：目標をかなり下回る